

地域の元気応援プロジェクト Bridging Community Development Project

空き家解体からはじまるサーキュラーデザインの実装

- 佐木島における空き家の解体とアップサイクルを通じて新たな空間資源を生み出すモデルプロジェクト -

3年目：循環する建築の構築へ

The Red Dot School
デザインを通じて 自由になる

広島大学大学院先進理工系科学研究科
建築学プログラム、角倉石垣研究室



広島県三原市・佐木島



非営利型一般社団法人The Red Dot School（レッドドットスクール）は、瀬戸内海の離島・佐木島を拠点とする、世界に開かれた建築デザインビルドの学校です。日本と世界の各地で建築等を学ぶ学生が佐木島に集まり、**建築に軸足を置いたサーキュレーションデザイン**を探求をする**教育プログラム**を提供しています。





2023年より<2週間滞在型ワークショップ>を年2回、<1週間滞在型ワークショップ>を年1回のペースで開催しています。参加者は、日本各地の大学(広島大学、広島工業大学、東京大学、京都大学、芝浦工業大学、他)、また世界各国(アメリカ、カナダ、フィリピン、ロシア、イギリス、フランス、ベルギー、香港、台湾、中国、パレスチナ、モロッコ、マラウイ、他)の大学生が海を渡って佐木島に集まり、食住を共にしながら建築の学びを深めます。

●**レッドドット(意味：赤い点)**というスクール名にも込められている様に、参加学生の出身地を白地図に記録していくと、地図が赤い点でいっぱいになり、循環をテーマにした建築教育を通じて、世界のクリエイティブをつないでいくという意味が込められています。

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得 ログイン LINEとつながり毎日5%※上限あり

キーワードを入力

トップ 速報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング

本業 国内 国際 経理 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

次代の建築家、佐木島から飛び立て！ 三原市と出身者らの法人、学生教育で連携協定

2/28(水) 7:31 配信 2 0 0



広島県三原市出身の建築家たちが、ふる里の佐木島を舞台に空き家を活用した地域活性化に取り組む。人材育成を進める一般社団法人を昨年5月に設立。国内外の学生を島に招き、講座や空き家から出た部材を再利用する手法を考えるワークショップを開いてきた。27日、建築を専攻する学生の教育で連携する協定を市と結んだ。

法人は同市東町の「レッドドットスクール」。同町出身で東京大建築学科研究員の河野直さん（39）＝千葉県＝と、米ハーバード大で建築デザインを研究する佐木島在住のプライアン・オルテガさん（42）たちが立ち上げた。年に数回、島に滞在しながら建築や風景のデザインなどを学ぶ講座を企画している。

岡田市長と佐木島の活性化に向けて意見を交わす河野さん（左）とオルテガさん（右）

2023年令和5年9月18日(月) 第1版

空き家解体 木造建築学ぶ

三原市の佐木島で、空き家を解体するワークショップが開かれ、国内外の学生ら約50人が参加した。建築デザイン教育プロダクトを専攻する、東北田舎入「ザ・レッド・ドット・スクール」の河野直さんが、広島県三原市で築られた木造住宅の解体と、解体で取れた部材の再利用について、建築デザインを専攻する国内外の学生ら約50人を招き、ワークショップを開いた。河野さんは「空き家の解体と、解体で取れた部材の再利用について、建築デザインを専攻する国内外の学生ら約50人を招き、ワークショップを開いた。河野さんは「空き家の解体と、解体で取れた部材の再利用について、建築デザインを専攻する国内外の学生ら約50人を招き、ワークショップを開いた。」

三原・佐木島 国内外の学生ら50人



佐木島の空き家解体現場の様子（三原市）

河野直さんは「空き家の解体と、解体で取れた部材の再利用について、建築デザインを専攻する国内外の学生ら約50人を招き、ワークショップを開いた。河野さんは「空き家の解体と、解体で取れた部材の再利用について、建築デザインを専攻する国内外の学生ら約50人を招き、ワークショップを開いた。」

河野直さん（左）とオルテガさん（右）

赤松新聞掲載記事 2023.9.18

2024年2月には、**一般社団法人The Red Dot Schoolと三原市が包括連携協定を締結しました。**この協定は、**建築・解体・アップサイクルに関する研究や教育の連携、また島内唯一の教育機関である鷺浦小学校との交流促進を目的としています。** 2週間の滞在型プログラム中には、世界各国から集まった大学生と島の小学生が**合同で図工や運動会を行うなど、文化的な交流を深めています。**



鷺浦小学校での土壁ワークショップの様子



はじめに

三原市東町出身の河野直（こうのなお）と申します。つみき設計施工社という建築の会社の代表をしながら、東京大学で建築分野の研究や講義を行っています。2023年より The Red Dot School（レッドドットスクール・一般社団法人設立準備中）という名前の「建築の学校」を佐木島にて立ち上げ、建築デザインの国際教育活動を開始しました。広島大学との連携を通じて、より多角的かつ専門的なアプローチをしていきたいと考えています。

三原市・佐木島を舞台にしたスクール

瀬戸内海に浮かぶ佐木島の穏やかな風景と暮らしは、世界で最も美しいものの一つです。一方、たった60年の間に急激な人口爆発と減少を経験し、超高齢化・空き家問題など、社会的課題の先進地であると捉えることもできます。これらは、これからの日本や世界が間違いなく直面していく課題であり、佐木島の未来を考え創造することは、日本と世界の未来の問題を先行して解決することでもあります。佐木島の美しい風景とコミュニティがサステナブルであるために、建築デザイン教育に何ができるかーこれが私たちが活動を通して探求する最も大きな問いです。2023年は空き家の解体とアップサイクルに着目し活動を展開します。

空き家解体からはじまるサーキュラーデザインの実装

- 佐木島における空き家の解体とアップサイクルを通じて新たな空間資源を生み出すモデルプロジェクト -

佐木島の空き家の中には、改修すれば使えるものもあれば、状態が悪く解体せざるを得ないものもあります。当活動では、後者の「解体を待つ木造空き家」に着目します。広島大学建築学プログラム（角倉・石垣研究室）と協力しながら解体工法を工夫し材を効率よく取り出す工法を探求します。解体によって、どの程度の状態のどの材料がどれだけ得られるかを分析し、アップサイクル材によってどんな空間資源を生み出せるかを設計・構想します。当事業の中で、これらの一連の流れを、ワークショップを積極的に開催しながらモデルプロジェクトとして実施したいと考えています。また、木造建築・解体・アップサイクルに精通する専門家を現地に招聘し、知見を広げたり、地域社会への周知活動につなげていきたいと考えます。

DECON SHED



空き家解体からはじまるサーキュラーデザインの実装

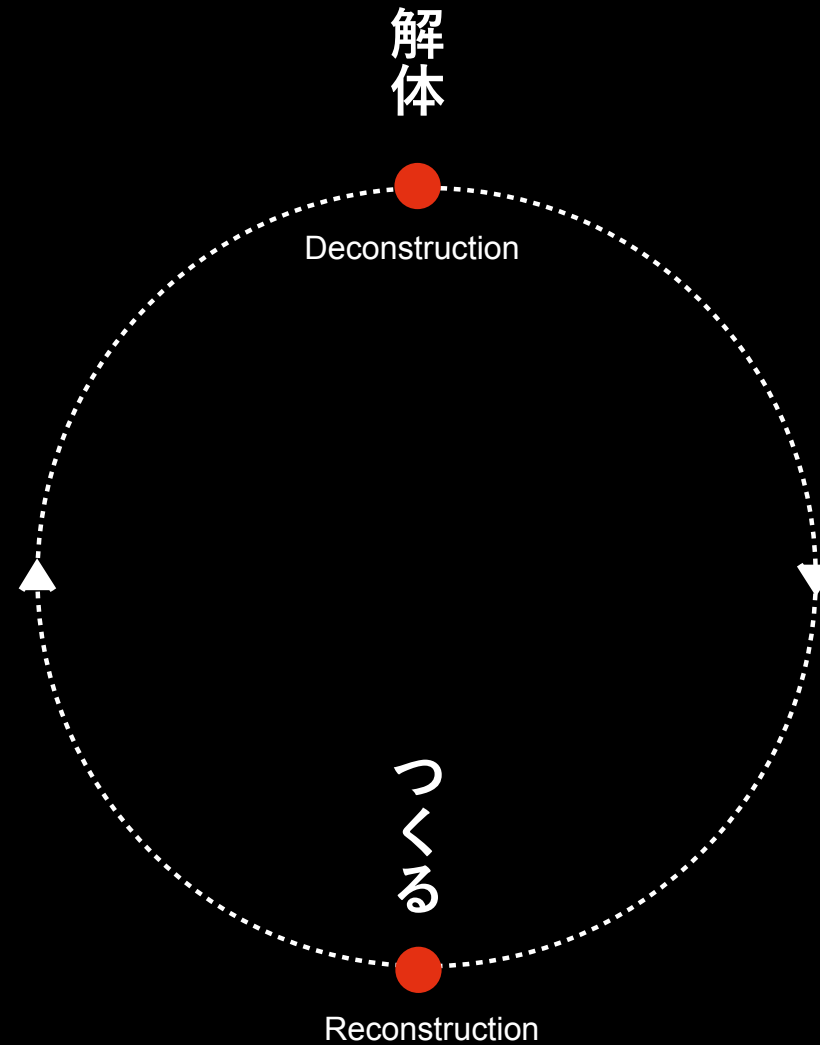
- 佐木島における空き家の解体とアップサイクルを通じて新たな空間資源を生み出すモデルプロジェクト -

解体と再構築

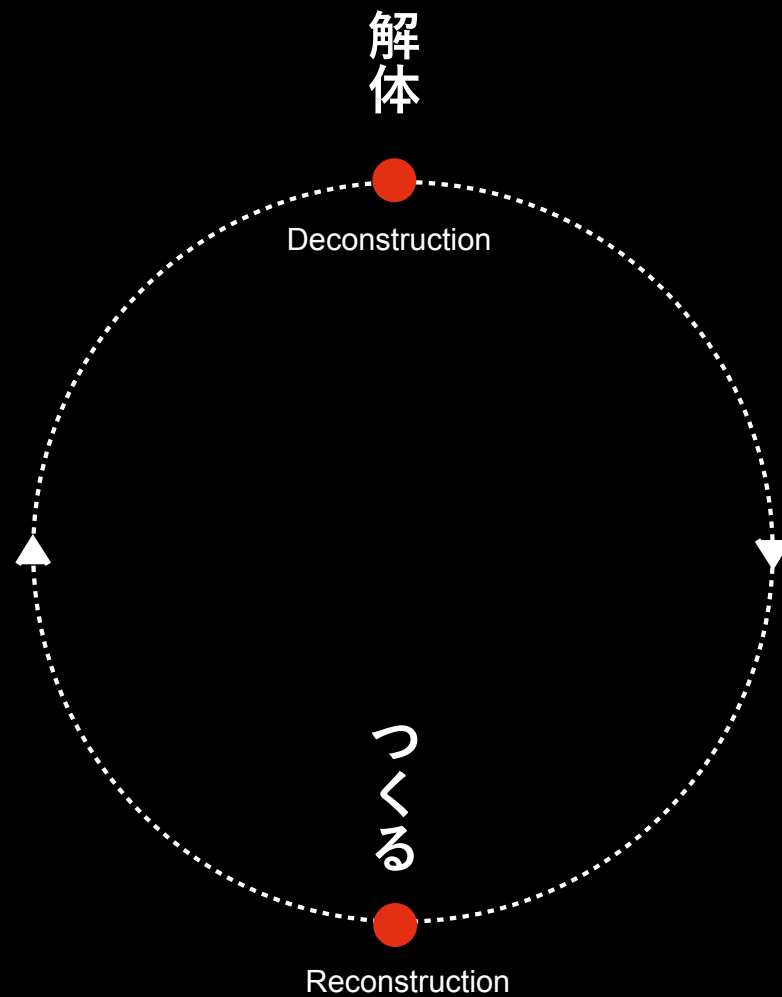
建築に軸足を置いたサーキュレーションデザインを 探求をする教育プログラム

島内で取り壊される予定の空き家を丁寧に解体することで、材料を取り出し、それらの材を利用して、新たな空間資源を再構築する。この循環を時間と人手をかけて実践するプログラムです。

時間と人手をかけることで、得られる実践知を最大化し、島との関係性を十分に深めていくことを意図しています。



解体と再構築



3年目申請：循環する建築の構築へ

2023.9

解体祭

解体

Deconstrcion

つくる

Constrcion

1度目の解体ワークショップの対象は、佐木島・鷺地区で使われなくなった農機具小屋です。RDSプログラム受講生・東京大学権藤研究室・広島大学角倉石垣研究室から約50名が参加し、大工の指導のもと、2日間をかけて更地になるまで、丁寧に解体を行いました。

2023.9

解体祭

解体

Deconstrcion

つくる

Constrcion

農機具小屋から取り出した古材は、陸路と海路の両方を使って、ストックヤードへと運搬します。

2023.9

ストック

解体

Deconstrcion

つくる

Constrcion

材料を種類ごとに分類し、ストックヤードの蓄積していきます。現在、古材のデータベース化も進行中です。



解体

Deconstrcion

つくる

Constrcion

解体祭

2度目の解体ワークショップに対象は、築70年の旧市営住宅(木造平屋)の解体です。三原市との包括連携協定により、当該建物を1年をかけて解体し、解体を通じた学習や関係性の構築を試みました。

2024.5

2024.5

解体祭

解体

Deconstrcion

つくる

Constrcion

2024年5月のワークショップを通じて、全ての土壁を解体。骨組みと屋根だけになった旧市営住宅にカーテンを使ったインスタレーションを行い、島民の方々も招きました。

2024.10

曳家祭

解体

Deconstricjon

つくる

Constrcjon

2024年10月には、解体ワークショップの続編を行いました。木構造の骨組みの一部は、解体しきらずに残し、別の敷地に移設することで再利用することを試みました。



2024.5



2025.3







次の展開：

建築の構築へのステップとして

アップサイクル <屋根+壁>の工法を開発しモックアップの制作を行う。

- ・2025年5月プログラム 5/26-6/8開催：日本・アメリカ・ノルウェー・パレスティナ・マラウイ共和国から17名が参加予定(海外学生枠・日本学生枠、定員オーバーに)
- ・2025年10月に2週間滞在型プログラムを開催予定
- ・2025年11月に広島大学・東京大学・RDSで合同クラスを予定







NEXT ▶ 建築未利用材・解体材を活用する地域循環型資材プラットフォームの構築と実装

